

デッチボウコウプロジェクト

アンガージユマン

若者の自立支援へ体と心を育む

引 きこもりや不登校の若者たちの自立を支

援している「NPO法人アンガージユマン・よこすか」(上町2丁目)が8月から、「デッチボウコウプロジェクト」を展開している。「デッチボウコウ」とは、年少の者が商家などに年季奉公するあの「稚奉公」である。21世紀に、なぜ。

どんな仕事も見て覚え

発案したアンガージユマンの理事長・島田徳隆さん(40)がこう説明する。

「稚奉公とは、とにかく仕事は見て覚えるもの、初心者には責任ある仕事をさせてもらえず、まずは雑用から、ですよ。一方、引きこもりの若者に多くみられるのが『頭で考えて、理屈

ばかりが先行し、体が動かない。すなわち働けない』こと。この点を徹底して無くすのが狙いです」

投げ出さずやり遂げる

アンガージユマンは10年前、上町商店街の空き店舗を利用してオープンした。

それは、地の利でもあるようだ。島田さんは続ける。「どんな仕事も、あきらめずに地道にコツコツと一歩一歩前に進む。働くことに堪えつる体力と精神力を育む場が、この商店街にはあるのです」

このプロジェクトも商店街のお店の理解と協力を得て取り組んでいる。

商店街のイベント、たとえば灯ろう祭りでのアイス配りや草むしりの手伝い、ゴーヤなどのグリーンカーテンの設置、街灯電球の取り換えなど。

アンガージユマンに集う若者たちは、就労に向けたさまざまな体験にチャレンジしている。

周りの商店も応援

上町商盛会の理事長で湘

南森モーターズの森昭さん(71)は「10年前、アンガージユマンが商店街の空き店舗に入ることは、正直、反対の声もあった。でもシャッター通りになってしまつのはもつとさみしい。場を作り、引きこもりを減らすことも大切だ」と活動を温かく見守り、ふれあいを大切にしている。

(鈴木 百恵子)



アンガージユマン経営の「はるかぜ書店」で本を整理する「デッチボウコウ」中の若者

